

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190600173		
法人名	株式会社サンライズ		
事業所名	グループホームゆつつら〜と北方		
所在地	武雄市北方町大字大崎2367-3		
自己評価作成日	令和6年2月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和6年3月11日	外部評価確定日	令和6年4月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当施設は現在5人の入居者様が入っていますが介護度が高い方が多いです。みんなで一緒にという事がなかなか難しいので個人のレベルやその日のご様子を確認しながら日々過ごしています。体調が良い時や活発に動かれている時は、レクリエーションなどみんなで行います。みんなで一緒に難しい時は個々で過ごしやすいように臨機応変に職員が動いています。当施設は入居者様の人数が少ないですが、お一人お一人を大切に見守り・個々に合わせた介助を行っている所がアピール点です。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>長閑な住宅街の一面に立地しており、同法人の有料老人ホームが隣接している。災害時には法人内で互いに協力し対応されるなど日頃から連携を図られている。事業所のモットーとして「自分のペースで・自分らしく・快適に・安心して生活していただけるよう支援する」と掲げられ、その日の状態や意向に応じリビングや居室など生活スペースを使い分け本人の要望にできるだけ対応できるように支援されている。また、コミュニケーションを大切にされ、その方の小さな要望を事業所内で周知し、どのように工夫をすれば応えることができるかを検討されている。入居者一人ひとりの生活を守ることを第一に考え支援されている事業所である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立・快適・安心をモットーとして、自分のペースで・自分らしく・快適に・安心して生活していただけるように支援を継続して行っている。	事業所の理念に基づき、その方らしい生活ができるように毎日支援をされている。日中はリビングだけでなく居室で生活できるなど、その日の状態に応じて対応されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周りに民家はあるが日中は不在が多く入居者様との交流はない。職員が地域の清掃活動に参加し積極的に交流を持つように心がけている。	法人として自治会に加入されており隣接する有料老人ホームから地域の情報を共有される。地域の清掃活動には、職員が参加し積極的にコミュニケーションを図り事業所の状況などを伝えるようにされる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を令和5年度より始め、地域の皆様にゆっつら〜と北方の状況報告を行い理解を深めてもらっている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	集合での運営推進会議を令和5年度より始め、地域の皆様にゆっつら〜と北方の状況報告を行っている。質問等お聞きし、意見をサービスに活かして行きたい。	コロナ禍は書面での開催となっていたが、令和5年度より集合での開催となっている。家族代表の方も参加されているが、参加されない家族に対しては玄関先で議事録が閲覧できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市町村の担当者にも出席してもらっている。また、施設入居の相談や問い合わせもあり、その都度情報交換を行っている。	行政より空き状況の確認などがあり情報を共有している。また、生活保護の受け入れなども行っているため状況に応じて相談できるように関係性を構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束はしない」という強い気持ちをもってケアにあたっている。現在、身体拘束を行っている利用者はいない。身体拘束委員会は毎月一回行っている。一時的に内扉の施錠は行う時がある。(職員休憩時など人数が少ない時にどうしても見守りが出来ない時の15分程度)転倒防止のため、赤外線センサーを臥床時に使用している。	契約時より身体拘束に対する指針を説明し、日中や夜間帯で転倒される危険性を説明した上で、センサー等を使用し少しでも安全に暮らして頂けるように取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を毎月一回行っている。また、施設内でも勉強会はおこなっており、高齢者虐待防止への理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員不足の影響もあり、外部への研修会へは参加出来ていないが、施設内での勉強会にて理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書にて分かりやすく説明するように心がけている。内容変更時は文書にて通知している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画作成時や来訪時、近況報告時などに意見や要望をお尋ねしている。遠方にいらっしゃるご家族様とは、利用者様個人携帯にて情報のやり取りを行っている。要望などは職員間で共有、検討し、サービスに反映している。	意見箱は玄関に設置しているが 投函されることはなく、日々の家族との連絡や面会時に意見を伺い対応されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部担当者が個別で話をする機会を設けており、情報交換や意見・要望を聞いている。また、日頃の職員間の話でも意見や要望などの話が出た場合はすぐ本部担当者へ報告するように心がけている。	本部の担当者が毎日訪れ、入居者や職員の様子などを確認されている。その中で意見や提案を収集し対応されている。以前蛇口の増設をしてほしいとの意見を反映された事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職場環境・条件の整備に努力している。こまめに管理者や職員との面会の機会を持ち、意見や要望を聞き取り反映出来るように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員不足の影響もあり外部研修への参加は出来ていない。施設内にて勉強会やミーティングなどで意見や情報交換を行いお互いの能力を伸ばしやすい環境づくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人関連施設で意見交換は活発に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居についての相談を受けた後、入居前に自宅や施設を訪ねて本人にお会いし、現在の困りごとを聞きながら信頼を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に管理者や主任が現状の家族の負担や困りごとを聞き、サービス内容や費用について説明を行っている。(費用については詳しく説明している)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	色々な選択肢があることを説明し必要と思われるサービスの提案をさせてもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員間にて情報共有し、共に支えていけるような関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のご家族様の気持ちを傾聴し、日頃の様子を来訪時や電話・施設新聞にて報告している。短時間ではあるが面会にも来ていただけるように声かけも行っている。遠方のご家族様にはビデオ通話や動画を取り日頃の様子をごまめにお伝えするように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活されてきた場所や人間関係を把握し日常の会話の中で思い出話をしている。利用者様が近くにあるお墓にお参りに行きたいと言われたのでご家族様にお墓の場所を教えてくださいとお墓参りに連れて行ったところ、ありがとうございますと何度も言われた。病院の待合室で知り合いに会われると笑顔にて話される。	コミュニケーションの中で入居者の思いを汲み取ることを大切にされている。日々の会話の中で、お墓参りに行きたいという要望に対して職員が主体となり応えることができた事例もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、席の位置など気にかけている。職員は利用者の中に入り、トラブル防止に努めたり話題を提供し利用者様同士のコミュニケーションがとれるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院による退居後も健康状態が良くなれば、再入居が可能であることを家族等に説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中でも利用者の気持ちや要望を把握し職員間で情報を共有している。意思疎通が困難な方に対しては、ご家族様からの情報や普段の生活から気持ちをくみ取れる様に努めている。	改めて要望を聞くのではなく、日々のコミュニケーションの中で小さな要望を伺い、ケアに反映されている。コミュニケーションが困難な方は、反応や様子を確認するように心がけられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様や家族様より聞き取りにて状況把握に努めているが、わからない部分も多くある。日常生活の会話の中でも情報把握に努めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれの1日の過ごし方を観察し、出来る事・出来ない事や年齢を考え個々のペースに合わせてケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の意向や意見、主治医の意見、介護職員・看護職員などケアに関わる職員の意見を聞きながら計画作成している。カンファレンスでは夜勤職員からも意見や情報をもらい計画作成に反映させている。	家族も担当者会議に参加できるようになっているが、多くの家族は事前に意見収集しケアプランに反映するように作成されている。職員は、モニタリングやケアカンファレンスを行いケアの統一性を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録について、計画担当者は利用者の大切なアセスメントとして、情報収集に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況や、利用者本人の気持ちや家族の要望などを汲んで、臨機応変に対応できるように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回地域の理髪店に訪問してもらい散髪をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後の主治医の変更は利用者と家族の意向に沿っているが、状況に応じてこちらから変更を提案することもある。以前のかかりつけ医からの情報提供もスムーズに行っている。月2回の定期往診のほか、異常時には随時相談や受診をし適切な医療を受けられるように支援している。	以前からのかかりつけを継続することは可能であるが、受診の際には家族対応が基本となっている。協力医療機関に変更することで月に2回の往診を受けることができ、主治医とは24時間いつでも連絡がとれる体制を構築されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士と看護師で日々の情報交換や相談をこまめに行い、状態変化の早期発見や早期対応に努めている。看護師の出勤日以外や夜間帯でも連絡が取れるようになっており、状況に応じて電話での指示を受けたり、看護師が駆け付け対応を行う事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院する際は情報提供を行い、入院後は面会や電話で様子を尋ね状況の把握を行っている。退院時は医療機関、家族と相談し退院後の受け入れがスムーズに行えるように調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合における対応に関する指針について、入居時に家族に説明し同意を得ている。緊急対応協力機関:新武雄病院	契約時に施設での看取りができないことを説明し、急変時の受診先を確認し対応されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備している。AEDも隣接する有料老人ホームほのかに設置されており、使用方法の研修も随時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練及び消火訓練や地震や水害等自然災害に対する訓練を隣接する有料老人ホームほかと共同で行っている。訓練後の報告書作成も出来ている。不審者侵入防止訓練や行方不明者訓練が行えていないが来年度からは必ず実施する。また、防災委員がない為防災委員会への参加が出来ていない。来年度は担当者を決め委員会にも参加をする。	訓練は有料老人ホームと共同で開催されている。災害時には近隣の公民館へ避難するように行政と取り決めを行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室のドアは必ず閉めてパッド交換などを行うように徹底、指導している。人前で大きな声でのトイレ誘導の声かけなどはしないようにしている。また、難聴の為にどうしても大きな声で言わなければいけない時には居室や目立たない場所にて声かけを行っている。拒否がある時には、時間をおいて再度声かけを行っている。	プライバシーを守るために居室の扉は閉めるように指導されている。不穏が強い時などは必要最低限のみ扉を開け対応される場合もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の意見を尊重し、複数選択肢がある時には必ず選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分のペースで体調や気分に合わせて生活してもらえるように努めている。(眠たい時は無理に参加させないなど)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容には気を配り、食後の口の周りや洋服の汚れなどに気を配っている。また、自己決定できる利用者には衣服を選んでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の個々の好き嫌いや食事のとり方・こだわりの把握に努めている。食事形態も個々に合わせてミキサー食やソフト食などで提供している。利用者との共同作業は行えていない。握力がない方や皿を落とされる事が多い方は割れない皿を使用。白いご飯が見えにくい方は黒い食器を。深い皿が食べやすい方には深めの皿にて提供している。なるべく柔らかく煮て提供している。	事業所では、常食、刻み食、ミキサー食を準備することができるようになっている。ソフト食の提供もできるが業者に依頼して提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事や水分摂取量を毎日チェックしている。適度な食事量、水分の確保が出来るように支援している。食が細い方や水分摂取量が少ない方にはご本人が好まれている食品や飲み物を個別で提供している。高カロリーゼリー等も摂取されている方もおられる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア支援行っている。義歯を使用されている方は、夜間帯に義歯を預かり洗浄剤に浸けている。痛みなどの訴えがあった時には随時協力歯科医に往診に来てもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、時間毎のトイレ誘導や利用者の行動により排泄のタイミングを図り誘導を行っている。自力でトイレ移乗できない方も、職員が移乗介助を行う事となるべくトイレでの排泄が継続できるように対応している。(バルーンカテーテルの方は1日の尿量を確認している。)	排泄パターンを把握し 時間帯でのトイレ誘導を基本としているが状況に応じて ポータブルトイレを使用されている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日確認し、水分補給や適度な運動、下剤を使用しながら排便コントロールを行っている。便の状態や回数を確認し看護師と相談の上、下剤の調整も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴の機会を基本として設けている。利用者の希望や体調に応じて入浴のタイミングに配慮している。入浴拒否があった場合には時間や日にちを変更し対応している。冬場はヒーターを使用。状態に合わせてシャワーキャリーも使用している。しっかり温まっていたくように心がけている。	浴室は広く手すりが設置されており可能であれば個浴で対応されている。個浴を使用することが困難な方には、シャワー浴にて対応され週に2日の入浴が基本となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の好きなタイミングで休息してもらっている。ご様子を見てこちらから休息を促すこともある。居室内の室温等環境整備にも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主に看護師が管理し、服薬方法や副作用等について職員に説明を行っている。管理についてはマニュアルを作成し事故防止に努めている。誤薬事故が発生した場合は主治医へ報告し、医師より指示を受け対応するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の力量の把握に努め、その方に合わせた支援を行っている。嗜好品の提供や天気が良い日などは散歩や日光浴なども行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	桜の季節は施設周辺に桜が咲くためこまめに散歩に出かける。天気が良い日は散歩を促し戸外に出るようにしている。ドライブなどは行っていない。病院受診の際に行きと帰りのコースを変え四季の景色を楽しんでもらうようにしている。	集団でのドライブでなどは実施されていないが、健康診断等で外出された際に個別で季節を感じれるようなドライブコースを選択し対応されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものや必要なものがある場合は家族へ連絡し購入をお願いしたり、預り金にて職員が購入を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時に携帯電話を持参されている方はいるが自ら携帯電話を操作されることはない。家族からの電話(ビデオ通話)がかかってきたり、こちらから日々の生活状況をお伝えすることに使用している。(写真や動画)他の利用者の方で希望がある時は施設の電話を使ってお話される。または、職員が代わりに用件をお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の壁を利用し利用者の作品や写真を掲示している。季節に合った花や飾りを行い、季節を感じられるように努めている。	共有スペースと居室の空間が分断されていることで、リビングの声も通りにくく居室で自由な生活が送れるようになっている。また、入所者の作品や写真なども掲示されており、居心地の良い共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置を工夫し、思い思いに過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は基本的に利用者本人や家族の好みに自由にしてもらっている。家族の写真や仏壇、遺影など持ち込まれている方もいる。居心地よく過ごせる居室作りに努めている。	ベッド、タンス、椅子、エアコンが設置されており、仏壇や家電などが持ち込まれているケースもある。危険物以外は自由に持ち込むことができるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行や車椅子を自走出来る方に配慮し安全な動線の確保に努めている。トイレには分かりやすくトイレと表示されている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない